

多文化共生と

子どもの本

10/17
2026 土

13:30
~ 16:30
開場 13:00

第1部 基調講演

『やさしい猫』の
その先に

60min



中島京子

会場

出版クラブ
4階

東京都千代田区
神田神保町1-32

定員

100名

参加費

1,000円

※大学生以下無料

第2部 シンポジウム 進行:西山利佳

「外国ルーツ」の子どもをどう描き、
子どもたちにどう伝えるか

70min



黒川裕子



こまつあやこ



山本悦子

意見交換 ・ 質疑応答

30min

いま世界は、どんどん排他的で不寛容になっているように見えます。日本においても、入管制度は排外主義的傾向を強め、同時に、「コロナ禍」以降の外国人観光客急増に伴うトラブルは「外国人問題」として報道され、「多文化共生」とはほど遠い空気が広がっていると言わざるを得ません。

私たちは子どもの本を通して、「多文化共生社会」のあり方を考えていきたいと今回のフォーラムを企画しました。

第1部の基調講演では、2021年に出版された小説『やさしい猫』（中央公論新社）の作者中島京子さんに、そのときの取材を通して浮き彫りになった「入管問題」や、執筆後のこと、外国人やその子どもたちが不当に差別されている現状などを具体的に語っていただきます。

第2部のシンポジウムでは、外国ルーツを持つ子どもたちを登場させた著書を持つ児童文学作家、黒川裕子さん、こまつあやこさん、山本悦子さんに、外国ルーツの子どもをなぜ書くのか、どのように描いたかを自作に沿って紹介してもらい、彼らが直面している問題を子どもたちにどのように伝えるかを語り合ってください。

文学の力を改めて感じる時間になればと思います。多くのご参加をお待ちしています。

企画

「子どもの本」委員会

主催

日本ペンクラブ

「子どもゆめ基金」助成事業

「この活動では、子どもゆめ基金への報告のために写真撮影を行います。提出された個人情報（写真）は、「（独）国立青少年教育振興機構が保有する個人情報の適切な管理に関する規程」に基づき、子どもゆめ基金助成業務以外の目的には使用されません。

申込 Peatix

<https://jpen-026.peatix.com>



問い合わせ先

一般社団法人日本ペンクラブ

■ メール kodomo2026@japanpen.or.jp

■ 電話 03-5614-5391

■ HP



第1部

基調講演

『やさしい猫』のその先に

5年前に『やさしい猫』という小説を書きました。そのときに、非正規滞在の外国人の存在について知りました。彼らが置かれる「仮放免」という状況、親に在留資格がないため生まれたときから「仮放免」の状態の子供たちの存在などを知ったことは非常に大きな衝撃でした。小説に即して、そうした子供たちについてお話しします。また、小説発表後、急速に高まった排外主義的な空気や、送還一辺倒の入管政策によって、5年前よりさらに追いつめられている現状についても、知りえたことをお話しできればと思っています。

中島 京子

なかじま きょうこ

1964年東京生まれ。

2003年『FUTON』（講談社）で小説家デビュー。2010年『小さいうち』（文藝春秋）で直木賞を受賞。スリランカ青年とシングルマザーの恋愛・結婚を軸に、非正規滞在の外国人とその家族を描いた『やさしい猫』（中央公論新社）は2021年に出版され、吉川英治文学賞、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。日本ペンクラブ常務理事。



『やさしい猫』
（中央公論新社
/ 中公文庫 2024）



第2部

シンポジウム パネリスト：黒川裕子・こまつあやこ・山本悦子 / 進行：西山利佳

「外国ルーツ」の子どもをどう描き、 子どもたちにどう伝えるか

黒川 裕子

くろかわ ゆうこ

『となりのアブラくん』
（講談社 / 2019）



こまつあやこ

『ハロハロ』
（講談社 / 2024）



山本 悦子

やまもと えつこ

『わたしに続く道』
（金の星社 / 2023）



作家。1979年、大阪府生まれ。2017年に、『奏のフォルテ』（講談社）で第58回講談社児童文学新人賞佳作入選。『となりのアブラくん』（講談社 / 2019）、『#（ハッシュタグ）マイネーム』（さ・え・ら書房 / 2021）、『オレンジット・ダイアリー』（光村図書出版 / 2023）、『チャリを盗んで、夜明け：My Favorite Things』（講談社 / 2025）、『わたしはシュシュ やりたいことしか、やっちゃだめ』（金の星社 / 2025）ほか。千葉県在住。

作家。1985年、東京都生まれ。学校や公共図書館の司書として勤務。2017年『リマ・トゥジュ・リマ・トゥジュ・トゥジュ』で講談社児童文学新人賞受賞。2021年『ハジメテヒラク』（講談社）で日本児童文学者協会新人賞受賞。『ノレノレかるた』（毎日新聞出版 / 2022）、『雨にシュクラン』（講談社 / 2023）、『ハロハロ』（講談社 / 2024）、『どろぼう妖精と見習い魔女』（静山社 / 2026）ほか。神奈川県在住。

作家。1961年、愛知県生まれ。元小中学校教員。『2017年『神隠しの教室』で野間児童文芸賞受賞。2023年『マスク越しのおはよう』で日本児童文学者協会賞受賞。『いっしょに遊ぼう、バーモス プリンカル!』（あかね書房 / 2003）、『がっこうかっぱのイケノオイ』（童心社 / 2010）、『夜間中学へようこそ』（岩崎書店 / 2016）、『わたしに続く道』（金の星社 / 2023）、『アリゲーターガーは、月を見る』（理論社 / 2025）ほか。愛知県在住。

西山 利佳 にしやまりか

児童文学評論家。1961年、宮城県生まれ。

青山学院大学コミュニティ人間科学部教授。月刊『クレスコ』（大月書店）に「先生読んで！ おとなのための児童文学案内」を連載中。

意見交換・質疑応答

第2部のパネリスト、黒川裕子さん、こまつあやこさん、山本悦子さんと、第1部で基調講演をお願いしている中島京子さん、そして会場参加者のみなさんにも加わっていただき、意見交換、質疑応答を行います。

本活動は、「子どもゆめ基金」の助成活動です。国立青少年教育振興機構は、子どもたちの成長に必要な体験活動や読書活動を推進するため、「体験の風をおこそう」運動や「早寝早起き朝ごはん」国民運動にも取り組んでいます。

本活動では、子どもゆめ基金への報告のために写真撮影を行います。

